

## ◆ 実践報告(1) 自死率ワーストの秋田から

## ● 藤里町の自死の現状

秋田県は平成 26 年を除き、7 年から 27 年まで自死率全国ワーストを続けており、藤里町は県内でも高い地域で、最近の 5 年間では、平成 23、24、26 年と県内市町村ワーストを記録している。

人口減少が激しいことも自死率を引き上げる要因となっているようである。藤里町の人口は、平成 28 年 12 月末日で 3,501 人。この人口から計算すると、1 人が自死でお亡くなりになるだけで 30 ポイントという自死率になり、秋田県の平均を超えた数値になる。



袴田 俊英  
こころといのち  
を考える会  
会長

## ● 先駆例だが成功例ではない

藤里町の自死対策への着手は県内でも早くに行われていた。平成 8 年、保健師を中心に「心の健康づくり事業」が開始され、平成 12 年 10 月には自死対策では県内初の民間団体「心といのちを考える会」が結成され活動が始まっている。

「心といのちを考える会」の活動の中心は、毎週火曜日に行っているコーヒーサロン『よってたもれ』である。このサロン活動は県内外から注目され、現在では県内は全市町村で行われている。

しかし、先駆的な活動ではあったものの、決して成功例とは言えない状況であり、活動を始める前は年間平均 3.3 人、活動を始めてから平成 27 年までの平均が 2.7 人という数字が事実を物語っている。

## ● 藤里町の変化

自死対策の活動が続けられる中で、住民の意識に変化があったのかであるが、秋田大学医学部の佐々木久長准教授が、平成 18 年と 27 年に行った藤里町の住民意識調査から、足掛け 10 年の意識の変化が見えてきている。その概略は次の 3 点である。

- 1) 減少がみられないことに対する「あきらめ感」
- 2) 自死に対するタブーの減少
- 3) 一方で自分の弱さを人に見せられないという感情は変化なし

藤里町では対策実施の当初、最重要とされていたのはタブーを取り除くことだった。自死が 3 万人を超え社会問題、あるいは行政課題や研究課題とされマスコミにも取り上げられるようになり、それまで「自殺」という言葉を使うことさえ憚られた状況は一挙に変化した。藤里町においても自死問題に関心を持つ人々は少しずつ増えており、また、自死に関する情報もかなり提供されるようになってきている。

しかし、対策の効果が数字に表れてこない中で「自死は防ぐことのできないもの」というあきらめも広がっている。結果、自死対策に関わっている住民でも自分の悩みは人に言わない、つまり SOS が出せないという状況は変わらないという悪循環が続いているのである。

## ● コーヒーサロンの機能

かつて農家の縁側でお茶飲み話をしていた光景は、高度経済成長と農村の近代化で姿を消してしまった。農村共同体の核であった互助の構造は失われ、人々を縛る「世間体」は残っている。“農村の人間関係も都会と同様、冷たいものになっているのではないか。ならば農村こそ人のつながりを必要としているのではないか。”という考えに基づいて始めたのがコーヒーサロン『よってたもれ』である。このサロンは相談窓口ではなく、悩みを話すところでもない。農家の縁側のように行きずりの人が立ち寄り、世間話をしていくところなのである。

平成 15 年から始めたこの活動は定着し、毎回顔を出す常連さんもできてきた。営業時間は毎週火曜日の午後 1 時 30 分から 4 時までのわずかな時間であるが、常連さんにとってはこのサロンが「居場所」になっている。

平日の日中に居場所のない人は、他者の仕事を邪魔しないようにひっそりと息をひそめていた。それができずに、いろいろなところへ顔を出して、他人を自分のペースに巻き込む人は「変わり者」とされていた。サロンに集まる常連さんは、そのような人たちである。

全く意図していなかったのであるが、サロンは藤里町にある「世間体」から逃れる場所「アジール」となっていたのである。

## ● アジールという考え方

中山間地に位置する藤里町の町民の気質は、一言でいえば「頑張り屋」である。そして、その頑張り了他者にも求めてしまう。また、「互酬」の関係が根強く、他者からしてもらったことに対しては、応分のお返しをしなければならない。それができないことが大きな負い目と感じられ、「迷惑」をかけてしまったという思いになる。「互助」よりも「互酬」が優先され、他者に迷惑をかけないことが大切だと考える気質であるともいえる。

この中でつながりを強調しても、対策とはなり得ない。なぜなら悩みを抱えてしまった人は、このつながりの中で生きていくことが苦しいものになるからである。むしろ、このつながりから「一時的に避難する」という方向性のほうが有効なのであろうと、私の考えは変わってきた。

雇用形態が変わり、頑張ることが強要される社会。仕事をするのが優先され、それを阻害するものが排除される社会。日本に蔓延する経済最優先の状況の中で、現代の苦が生まれているのではないか。そして、そこから一時避難する「アジール」が必要なのではないか。

これまでの活動を通じて、現在はこのように考えている。

※) 参考資料 全国・秋田県・藤里町の自殺率比較表

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
全国	24.1	23.3	23.7	25.5	24.0	25.5	23.7	24.4	24.0	24.4	23.4	22.9	21.0	20.7	19.5	18.5
秋田県 (人数)	38.5 (457)	37.1 (436)	42.1 (494)	44.6 (519)	39.1 (452)	39.1 (467)	42.7 (493)	37.5 (419)	37.0 (409)	38.1 (416)	33.1 (358)	32.3 (346)	27.6 (293)	26.4 (277)	25.9 (269)	25.7 (262)
藤里町 (人数)	63.6 (3)	85.4 (4)	87.9 (4)	44.3 (2)	0 (0)	22.9 (1)	23.6 (1)	135 (5)	0 (0)	49.6 (2)	50.6 (2)	105.5 (4)	107.3 (4)	82.9 (3)	85.7 (3)	59.8 (2)



コーヒーサロン『よってたもれ』

### ★ 用語解説

・アジール(アサイラム) ..... p104